

おにはち  
柿



詰つんとなく、  
 側に。ネ気よ黒く、  
 両たるはの、  
 。いい々間た  
 いたてて人昼い  
 いしれう、覗  
 て出溢交はら  
 せしにきりか  
 見醸り行通目  
 をを通、のれ  
 い気、てそ切  
 わ困がいろの  
 賑雰るてい  
 もないえてピ  
 日かて与っ  
 のやけをな角  
 そぎ抜感と四  
 はにき心帯て  
 りの吹安のっ  
 通その光浴知

それ  
 寒  
 倒人が婆帰か  
 一ま議間で彼っし  
 女深は

そり  
 ちれに  
 だ  
 意識で、に



たえめとれそ分いく。  
っ答強何こ、大か長た。  
困はをも「に。温らっ  
し女気と。うあをな座  
少彼語えるよや況いに  
と」や答いのじ状な路  
るうや」でかれのけに  
なよは…んるそそ歩緒  
とし年…飲す、り。一  
いで青いをしよはたと  
なる」は酒押だやえ婆  
けでう…り後目でこ老  
歩んよっはて駄っ聞な  
、飲しよやい、言でう  
で酒でちも聞あう中そ  
のおだ「てをあそ背辛  
た、ん。見の「」がも  
いん飲たをう。いのに  
てや酒いろ言たいたか  
いちおでこがっがっい  
を描ば「りと年言方走え  
を。もく青てたにさ

かたた握そ彼見  
とっつを。にを  
何ぐ立手た皺年  
ももきでった青  
婆てっ端かっ  
老いさ道な入  
。て、来に開  
たっとは出元を  
っ座るにが目  
合てめ人との  
きいつるこ女死  
向つ見ぎす彼必  
とをを過離。  
婆尻年きをた  
老に青行手い  
と路てをはて  
っ、けりにつ出  
やく開通年握み  
はしじ。青く滲  
年らこた、強、見  
青るをいが力  
い。睨てたどうに

いり走こたい。  
付くにと落白た。  
がっ婆ど洒のっ  
気ゆ老れの灯だ  
にをがけ角光絵  
と前彼。、螢の  
このきたて、一枚  
い目っいしは一  
しのさてをに  
々彼にっけ向正  
々がが違付方は  
瑞がが違付方は  
がけ確にりむれ  
目だ、妙飾進そ  
の像が微のの。  
女映るはス彼だ  
彼なすとマ、の  
とかがのス中  
ふ静地もりのい  
は、心たクりに  
年えな見い通れ  
青消うの早る倒  
てよ分のめ

部楽倶トプリント  
「どの老婆の  
ズがあっ  
！あ  
」そた  
そた

知心ろ  
の安い  
目的、だ。  
目っに  
。よ時の  
たにくた  
な青て感  
く、しを  
たけ長と  
き付成こ  
泣傷ねた  
かく重  
だ鋭を  
故を時  
何彼はな  
、は彼に  
に片。人  
急断た大  
はのい  
彼感て大  
心得た

うは  
そに  
事手  
大の  
をそ  
手の  
のて  
青年し  
と青そ  
うた  
言付  
う付  
そが  
は気  
女に  
彼と  
「寒  
「寒  
っ

てわう  
れ言こ  
かうお  
磨そて  
く」っ  
よえ握  
はね間  
皮いの  
。かし  
。た少  
いたを  
付あ手  
がはの  
気手女  
もの彼  
にんら  
とやが  
こちな  
る兄し  
いおも  
て「で  
っ。し

て家つて抱れでっかこも婆。  
っ、かぎをかる言やっつ老た」  
やん分すち聞れてや端っ。いよ  
にゃとれ持」歸し冷、いた響し  
間ちい慣気町てに、ら、しにで  
のあなどた下い様にかあ出年た  
つばけれし中歩るずいさ見青て  
いお歩け心「で遮見なんを、っ  
」「故。感。人を危やりく酔  
」。「何たはた一れ目、ち翳重か  
の。した。しりっ、そのらあに、ん  
。た。した。心よかね、官ほば顔く  
う心っ感うないに警、おの低も  
ど安だは言ら近ちはは、婆は時  
んしと年とな、う彼こっ老声の  
や少こ青。はあい」こあはのそ  
ちはなとたて「なら」。「年そ…  
あ年もだっく。らかあ。青…。  
ば青尤んかなたわいなた」さ  
お、ももなさっ終ないけよつで  
「にはたら消言かてな続けるい辺  
声とれかりてる立がをあ「の

いあ  
てく  
えら  
覚ば  
はし  
かは  
た彼  
。言  
。か  
か  
何  
がな  
官い  
警は  
に官  
後警  
のう  
そも  
は、  
年は  
青き  
とた

い気の老の  
かな分い手  
温う自たの  
のよで冷年  
年たこ、青  
青れそし、  
はらてかも  
婆切ししえ  
老裏そ。さ  
、が、たで  
ず分ういり  
わ自ろて通  
言にだっの  
も官の思こ  
何警くとる  
間、いるい  
のはてなて  
く年れうれ  
ら青連そ溢  
ば。へ、が  
した所る光  
っ出帰い

うう？と。っとはう  
よよ生るがか独でよ  
すし学いたな孤いの  
話を大てっら、なか  
ら話「しかなとえう  
かと」人なば間考よ  
女婆ん浪はれ時、ま  
彼老う。でけのでさ  
、は「い訳など中に  
か年」しるしほの野  
っ青い難い強す間荒  
い。かかて勉余時  
」たんなしはてくな  
っさかく彼持いの  
くあ生な悪。て光  
いが学がをいたぎで  
んれ「の気なっ過る  
さ流」るてもかくま  
兄の8えしでなな  
お時1答対生得とた  
「た「がに校しこい  
い。る問高駈るて

消もてこ  
はか捨る  
てのをい  
っる物て  
巡い荷っ  
がて。な  
いいいく  
思付な重  
の気れは  
ろうきの  
いもりむ  
ろにや進  
い時にに  
をのさ前  
中そ暗、  
のはいに  
彼いなう  
にるのよ  
うあ光の  
ふ、かっ  
なもくる  
んでなれ  
頃

分、  
自の、  
、の  
にも  
手た  
のい  
彼て。  
はった  
女握じ  
彼を感  
ら手と  
がのッ  
な年ヤ  
い青ヒ  
言とは  
うっは  
そず腕  
」。た  
いたっ  
寒れか  
「入か  
を温

いバたに大立  
いたし手もて  
イヤがのだけ  
てジ感年れか  
しの予青そを  
を色なて、重  
話ク嫌しく体  
シンは出強に  
少ピ年りで肩  
う、青取手の  
もし。を兩年  
と離れた札、青  
婆をめぐは  
老手始千向女  
のたりらに彼  
こい探か下。  
かてとトをた  
が握わケは付  
年にさポ婆し  
青ずわの老押  
さ、一とへっ

る返年とわの新なんだ  
せを青だ言今はがや。  
返葉く礼もはに信ちた。  
ば言ら失何葉彼確ばし  
えのばには言のおと  
言そし当婆た今か「う  
とに」本老し、う。よ  
すもが「」出しどくせ  
返とす」よにかかいら  
。とまよな口しいて取  
た手いいし？。ないけ  
っの思なに切たい歩受  
あ女はえ事親じてて、た  
が彼とら大」感っいけっ  
信、礼もはよら合向付取  
自き失、かるかみをしけ  
すいにやとなて噛前押受  
返て当い金くっにぐへら  
はい本「おなな当す女か  
年つ、。、やに本っ彼顔  
青にやく、にじ音もまをの  
後い続当切、そ、手女

せく目るしっ  
さでがい度ま  
めん婆て一し  
ら飲老いうて  
きもと歩もっ  
あで年てう行  
、茶青めそて  
年にお。し」い  
青れめ踏いに  
いこ始をい  
な「き面にわ  
ら。歩地当言  
取たびも本も  
けっ再ら、何  
受言とがんま  
もくうなやま  
でしこきちの  
ま優いつばそ  
いつてらお、  
い見れふ「ず  
を離か、ら

と  
う  
そ  
話  
少  
し  
か  
ら  
こ  
れ  
。こ  
れ  
か  
ら  
少  
し  
話  
そ  
う  
と

